

日時：2018年（平成30年）8月20日（月）

午後15時～17時

場所：藤沢市役所3-3会議室

出席者

評価委員会委員長	藤井 佳世	（横浜国立大学教育学部 准教授）
評価委員会副委員長	渡邊 美子	（学校・家庭・地域連携推進会議会長）
評価委員会委員	渡邊 泰典	（多摩大学グローバルスタディーズ学部 教授）
評価委員会委員	伴 瑞穂	（藤沢の子どもたちのためにつながる会）
教育委員会	平岩 多恵子	（教育長）
教育委員会事務局	神原 勇人	（教育次長）
	村上 孝行	（教育部長）
	佐藤 繁	（教育部参事兼教育総務課長）
	窪島 義浩	（教育指導課長）
	小池 規子	（教育部参事兼学務保健課長）
	板垣 朋彦	（学校給食課長）
	山口 秀俊	（学校施設課長）
	繁里 洋子	（教育総務課指導主事）
生涯学習部	秋山 曜	（生涯学習部長）
	須田 泉	（生涯学習部参事兼生涯学習総務課長）
	峯 千鶴	（生涯学習総務課課長補佐）
	横田 淳一	（郷土歴史課長）
	横田 隆一	（文化芸術課長）
	西台 篤史	（スポーツ推進課長）
	饗庭 寛子	（総合市民図書館専任主幹）
	赤坂 政徳	（東京オリンピック・パラリンピック開催準備室長）
	青木 将徳	（東京オリンピック・パラリンピック開催準備室主幹）

繁里指導主事 みなさん、こんにちは。

本日は、お忙しいなか、お集まりいただきまして大変ありがとうございます。
この教育振興基本計画 評価委員会は、「評価委員会設置要綱 第5条 第3項」の規定により、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができないとされています。本日は、委員数4名のうち出席者4名で、過半数の出席をいただいていますので、会議が成立していますことをご報告いたします。

それでは、ここからは、藤井委員長に進行をお願い致します。

藤井委員長

この評価委員会ですが、「藤沢市情報公開条例第30条」の規定により、審議会等は公開が原則となっています。したがって、この評価委員会につきましては、原則として公開とします。ただし、会議を公開することにより、当該会議の適正な運営に著しい支障が生ずると認められる場合がありましたら、その都度、

皆様におはかりして決めてまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

それでは、そのような取扱いとさせていただきます。次に、「藤沢市審議会等の会議の公開に関する要綱第6条第1項」の規定により、会議資料につきましては、原則として、傍聴者の閲覧に供することとされていますが、傍聴者に対して会議資料を配付することについて、ご異議はございませんか。

(「異議なし」の声)

ご異議がありませんので、そのような取扱いとさせていただきます。また、会議録につきましては、事務局で作成し、公開してまいりたいと考えていますので、よろしくをお願いします。なお、傍聴者数に関しましては、「藤沢市教育振興基本計画評価委員会傍聴規程第3条」において「会議室の広さに応じ、会議の運営に支障を生じない範囲で、会議の都度、委員長が定める」とありますので、本日の会議では10名とさせていただきます。それでは、傍聴者がいられていますので、入室していただきます

藤井委員長 　ただ今から、第3回 藤沢市教育振興基本計画 評価委員会を開会致します。それでは、お手元の次第に沿いまして、議事を進めて参りたいと思います。まず議題(1)「平成29年度 教育委員会の点検・評価」から始めます。事業コードの順に1事業ずつ、追加質問及び講評という形で進めていきたいと思います。講評する際の観点ですが、事業の内容が目標を実現するために適切か、事業の成果・効果が適切か、課題・問題点の捉え方は適切か、この事業は「施策の柱」や「基本方針」に対し、効果があったかといった観点からのご意見ををお願いします。では、事業コードについて追加の質問はありませんか。それでは、講評に移りたいと思います。この事業に対するご意見ををお願いします。

藤井委員長 　それでは事業コード114「中学校英語科教員派遣事業」について追加の質問はありますでしょうか。それでは講評に移りたいと思います。この事業に対するご意見ををお願いします。

渡邊(美)委員 　事業コード114 中学校英語科教員派遣事業について説明させていただきます。途切れることのない学習という観点から言えば、小中学校が学習指導について連携することはとても素晴らしい取組で、確かな学力の向上という施策の柱をかなえる方法として画期的で的確だと思います。アンケートに基づき内容や方法など改善していこうという姿勢もよいと思います。期限のある事業で終わらず、今後小学校で英語を学び始めた子どもが、中学校で学ぶ上で出てくる問題点などをフィードバックするなど、連携を継続強化していただきたいと思います。さらに言えば、本事業の成果を見て「英語嫌いにさせない」を「数学・国語嫌いにさせない」など、数学や国語などにも生かしていけたらと思います。

伴委員 　新学習指導要領による小学校での外国語活動の全面実施に向けて、近隣中学校の英語教員が小学校へ出向き、教員の意識向上、意欲喚起、技術向上を図るこの事業は、施策の柱である「確かな学力の向上」に寄与していると思います。小学校と中学校の教員の交流により、子どもたちを9年間の学びという視点で教育活動を行え、困りごとを共有する機会にもつながり、よい連携をはかるきっかけにもなっていると感じました。共に学び、多くの人とかかわり合いながら自立する子どもたちを育成するという基本方針に基づき適切に実施されていると思いまし

た。平成 32 年の完全実施に向けて、より具体的な教材の使用方法をしっかりと研修していただきたいです。また、講師の人員を増やす等の負担軽減策を行い、より実践的な研修ができるとよいと思います。英語を楽しむ、嫌いにならずに親しむ、ふれるという事業の展開を強く願います。

渡邊（泰）委員 中学校英語科教員を小学校に派遣し、全小学校教員を対象に外国語指導技術の向上を図るといふこの取組は、施策の柱である「確かな学力の向上」に教員の技量の向上を通じて寄与することができると思います。小中学校の連携という観点から、中学校教員を近隣の小学校に派遣するというのも、小中教員の協働を促し、この期間を通じた児童生徒の学びにつなげることができると考えられ、有意義な取組だと思えます。一方で、この取組だけで小学校教員の外国語指導の準備が完了するわけではなく、派遣される中学校教員の負担も大きいことから、今後の取組においては、退職した元教員や非常勤教員などの人的資源の活用も視野に入れてほしいと思います。また、各校で 2 年実施ということですので、先行実施した英語授業でのフィードバックを全市でいかせるような仕組み作りも考えてほしいと思います。

藤井委員長 本事業は、施策の柱である「確かな学力の向上」を進めていると思います。中学校英語科教員による市立小学校への派遣と研修の実施は、受講者の小学校の先生の振り返りやアンケートを伺いながら、移行期のポイントや中学校英語科の教員の授業が楽しかったなどの声があり、教員の意欲喚起や技術向上に効果があったと思います。また、報告から、研修を通して、小学校と中学校の教員の連携や交流が進んでいることも分かりました。研修を担当した中学校英語科教員の声を取り入れながら、運用面における改善点などもふまえて、新しい言語を学ぶことが子どもたちにとって楽しい経験になるよう今後も充実した取組になるよう期待しています。

藤井委員長 事業コード 244「奨学金給付事業」について追加の質問等ございますか。それでは講評に移りたいと思います。この事業に対するご意見をお願いします。

渡邊（美）委員 奨学金を広く浅く給付するのではなく、本当に必要な人に学業に専念できるだけの給付をし、それに対しきちんとフォローをしていくという方法は効果を上げるという観点で適切であると思います。寄付者の意向という点についてきちんと掲げることは、今後の寄付環境の整備のためにも必須と思われます。学びたくて学べない生徒の背中を押してあげられる立場にある人に本奨学金を広く周知させることも大きな課題と思われます。

伴委員 経済的な理由により進学が困難な子どもたちにとって、給付型の奨学金は将来に希望を持ち、将来を担うために「教育機会の均等保障」という施策の柱に寄与していると思います。進学後のフォロー等の寄り添い支援、教育応援基金の資金集め等課題はたくさんあると思います。しかし、広く周知を行い、関係各課、関係機関と連携をし、この給付型の奨学金を今後も継続していける事業となるよう応援していきたいと強く思います。様々な媒体を通じて広く周知し、多くの子どもたちがこの給付金のことを知ることでできる機会をぜひ増やし、門戸を広げてほしいと思います。

渡邊（泰）委員 3 名の奨学生に対して、入学金相当額の支給を行い、大学等への進学を促すなど、「教育機会の均等保証」という施策の柱に対して、この事業が寄与していると

考えます。進学後も面談を行うなど、奨学生の学修をサポートする仕組みが一定程度確立されていると考えられます。今後は、進学先教育機関との連携や情報共有の体制づくりも進めていってほしいと思います。当面は現在の人数を維持しつつ高等教育機関の修了実績を積み上げ、将来的には、奨学生の人数を増やすことや、高等教育機関の在学中に不慮の事故などで学費負担が困難となってしまったケースなどについてもサポートするような制度について検討してほしいと考えています。

藤井委員長 本事業は、施策の柱である「教育機会の均等」に効果があると思います。報告から、奨学生への面談を入学後も丁寧に行なっていることが分かりました。様々な要因から、大学での学修が入学後困難にならないよう、今後も、関係機関と連携しながら面談を続けてほしいと思います。また、より広く多様な子どもに本事業を知ってもらうため、子どもがどのような方法で情報にアクセスしたかなどの検証も含めて、より丁寧な広報をお願いします。

藤井委員長 それでは事業コード314「学校 ICT 機器整備事業（教育用・校務用 PC）」について追加の質問ありますでしょうか。それでは講評に移りたいと思います。この事業に対するご意見ををお願いします。

渡邊（美）委員 整備率が県平均と比較して極めて低いということですが、その分、今後は先進的に整備を行ってきた自治体での問題点や、見習うべき点などを参考に、さらに効率よく質の良い教育環境を整備していただきたいと思います。整備率の目標は確実に達成されるものと期待しつつ、整備されたものをきちんと活用するための取組に関しては、今後県平均を大きく上回るような工夫と努力を期待します。

伴委員 教育情報機器の活用による子どもたちへ向けての情報教育（情報モラル教育、PC 技術習得等）の推進、並びに教員に向けての効率的な校務処理とその結果生み出される教育活動の質の改善のために、学校 ICT 機器整備事業（教育用・校務用 PC）は施策の柱である「学びを支え質の高い教育環境の整備」に寄与していると思います。子どもたちの持つ様々な特性に応じた電子黒板やプロジェクターの利用、共通教材の使用による教員の授業準備負担軽減や効率的な校務遂行が行えるように早急な整備を望みます。共通教材の使用により、標準化された教材を使用しながら、それぞれの教員らしい授業展開がしやすくなればよいと思います。情報機器の使用が、特別なことではなく日常的なことになっていく子どもたちの生きていく時代に、しっかりと活用の仕方を学ぶことのできるよう、整備とともに、教員の技術向上についてもお願いしたいと思います。

渡邊（泰）委員 校務用 PC の追加、学校グループウェア導入など、市内小学校の ICT 環境の整備を進めることによって、施策の柱である「学びを支え質の高い教育環境の整備」に寄与していると考えます。校務用 PC は、校務だけではなく、教室での学習用にも利用できることと、今後は通常教室での活用方法の研究などに期待したいと思います。また、グループウェアの導入についても、事務作業の軽減に貢献し、現場の教員が児童と直接向き合う余裕を増やすことが期待できます。一方で、校務用 PC や LAN の全体的な導入率の低さは懸念材料と言えます。通常教室での PC 活用に関しても、LAN が導入されていることによって相乗効果が期待できるため、PC と LAN の導入は車の両輪として進められるべきであると考えます。活用方法の研究については、パイロット校での経験を全小学校へと共有化してい

く研修会なども継続して行うことを期待します。

藤井委員長

本事業は、「学びを支え質の高い教育環境の整備」に貢献すると思います。報告から、共有ドライブに作成した教材を保存していることや、紙の作業を可能な限り効率化する方向であること、プロジェクターの配備を進めていることが分かりました。効率的な事務処理から生まれる時間は教育活動の質の改善につながると思います。小学校校務用パソコンの整備率を高めることは大切なことだと思いますが、同時に、使いやすさの検証も随時行うことでよりよい取組になるのではないかと思います。

藤井委員長

事業コード 413「オリンピック・パラリンピック関連事業」について追加の質問はありますか。それでは講評に移りたいと思います。この事業に対するご意見をお願いします。

渡邊（美）委員

市民参加型推進・教育プログラム・文化プログラムの三本の柱での事業の推進は目標対し的確であると思います。その中でも、ボランティアをはじめとした市民参加に関しては、スキルと実績のある外部への委託は合理的判断と思います。子どもたちや市民の多くは、このまたとない機会に何かやりたいと思っています。個別では難しいことでも、当事業先導で実現できることは多いと思います。短い期間ではありますが、市民の多くが間近で行われるオリンピックを肌で感じ、後々まで財産と思えるような事業を展開していただきたいと思います。

伴委員

オリンピック・パラリンピックというビッグイベントを身近で経験することはなかなかない機会です。オリンピック・パラリンピックのもたらす様々な影響・効果を子どもたちをはじめとしたすべての市民が享受できることを目的とし、様々なプログラムの実施を行うオリンピック・パラリンピック関連事業は、施策の柱である「生涯学習の推進」に寄与していると思います。開催までの限られた時間の中で、子どもたちがオリンピック・パラリンピックに関心を持ち、教育委員会をはじめ各関係機関、関連団体と連携して多様な学びの場としての教育プログラム、文化プログラムを具体的に策定・実施する中で共に助け合い協力し合うという支援を行うことが当たり前のような社会について体感しながら学ぶ機会を持てる場となればよいと思います。

渡邊（泰）委員

「藤沢ビッグウェーブ」や「ボランティアフォーラム」などの取組によって、ボランティアを通じて多数の市民がオリンピック・パラリンピックに関わる下地が出来ており、施策の柱である「生涯学習の推進」に寄与していると考えます。一方で、ボランティアには18歳以上という要件があるため、児童生徒へのアプローチについては、今後の「教育プログラム」や「文化プログラム」の実施状況を確認する必要があります。また、H29年度に実施した事業に対する課題・問題点の把握があればもっと良かったように思います。いずれにせよ、2020年のオリンピック・パラリンピック開催を見据えて、市民の理解を高めるためには必要な事業であると考えますので、今後も個別の取組を続けていただきたいと思います。

藤井委員長

本事業は、「生涯学習の推進」に貢献すると思います。事業目的にあるように東京2020大会を契機とした様々な効果を全ての市民が享受できるように、多様な市民に対応した取組を進めてほしいと思います。報告から、ボランティア講座の実施や、関連地区への説明などを行っていることが分かりました。教育プログラムの実践に向けて児童生徒への教育と関連した事業を進めると同時に、例えば同じ

施策の柱にある地球温暖化対策普及啓発事業と連携するなど、広く市民にとって意義ある取組になることを期待しています。

藤井委員長 事業コード 527「歴史資料公開活用事業」について追加の質問はありますか。それでは講評に移りたいと思います。この事業に対するご意見をお願いします。

渡邊（美）委員 浮世絵館やふじさわ宿交流館など、市民への公開の場も充実し、蔵まえギャラリーや、地域住民による郷土資料室、湘南遺産など、市民活動も充実していると思います。その中で当事業が掲げる基本方針に対し現在行っている内容は的確であると思います。市民へのさらなる周知に関しての課題は、本事業を価値あるものにするためにもとても重要だと思います。歴史的に貴重な財産を埋もれることのないよう、既存の施設や、市民活動、教育現場など、様々な機会を活用、事業展開を図っていただきたいと思います。そのためにも、相互の情報のやり取りに力を入れて、協力して周知活動ができれば大きな力になると考えます。電子博物館は最大限アクセスしやすく、見やすく、わかりやすくしていただき、市民に愛されるものとしていただきたいと思います。

伴委員 子どもたちに向けて教育の機会として、学校における郷土資料講座を実施するなど、施策の柱である「歴史の継承と文化の創造」に寄与している事業だと思います。小3、小6の単元で、実際の古い道具等を用いて子どもたちへ歴史資料の提供を出張授業で行っていることは、とても素晴らしいと思います。ぜひ、全校での実施に広がってほしいと感じました。様々な学習の機会をとらえて、視覚的にわかりやすく郷土の歴史について情報を提供することは、郷土愛を持つ藤沢の子どもたちとして成長する大きなきっかけづくりとなると思います。また、浮世絵館のHP、みゆネットのリニューアル等、積極的に様々な手段で情報提供を行っていることも活用の場が広がる良い取組であり、地域に根差した郷土愛あふれる事業展開にこれからも期待しております。

渡邊（泰）委員 市民ギャラリー常設展示、郷土資料講座の実施、電子博物館の整備等、いずれも施策の柱である「歴史の継承と文化の創造」に寄与する事業であると考えます。小学生のための郷土資料講座は、学校での学びと地域を結びつける良い試みだと思います。今後は、中学生や高校生対象の講座なども検討していただきたいと思います。みゆネットふじさわや浮世絵館などは、藤沢市にとっての貴重な資産となっていると思いますので、今後もこれらを活用した取組が続くことを期待します。

藤井委員長 本事業は、「歴史の継承と文化の創造」に寄与する大切な事業だと思います。報告から、学校から依頼があった場合、カリキュラムに含めて学芸員が小学生のための郷土資料講座を実施していることを知りました。中学校との連携も含めて、今後も継続発展するような講座を実施していくなど、多くの子どもたちが関心をもって探究できる機会を提供してほしいと思います。また、利用者の声をもとに、より充実した歴史・文化に関する事業を進めることを期待しています。

藤井委員長 事業コード 631「生涯スポーツ活動推進事業」について追加の質問はありますか。それでは講評に移りたいと思います。この事業に対するご意見をお願いします。

渡邊（美）委員 気軽に参加できるスポーツ・レクリエーションの機会の提供をさらに充実させるといった事業目的に対し、事業の内容は的確と思われる。事前申し込み不要と

いうオープン教室は、スポーツの機会を求めているが、二の足を踏む市民にとっては気軽に試すことができるものとして有効と思われます。課題として事業の周知方法の工夫は不可欠だと思います。また、場所も市内くまなく身近なところでより気軽にスポーツに親しむことができればと思います。それを足掛かりにして現在提供している中心的施設のオープン教室や他講座参加者増も期待できるのではないかと思います。今後の取組にあるように、継続的に楽しめる魅力的なプログラムに期待します。

伴委員 誰もが気軽に参加できるよう、事前予約のいらないオープン教室の実施等、「生涯スポーツ活動推進」という施策の柱に寄与した事業を展開していると思います。「健康で豊かなスポーツライフの環境整備を行います」という基本方針に対し、参加者層に応じて興味関心を引くようなプログラム内容を提案し、運動能力に応じて提供するという市民ニーズを意識したプログラム作成を行っていると思います。今後も、継続して多くの方々が参加しやすい、参加したいと思う事業展開を行っていくことを期待しています。

渡邊（泰）委員 オープン教室、開放事業、共に一定程度の参加者があり、施策の柱である「生涯スポーツ活動の推進」に一定の寄与があると考えられます。一方で、参加のハードルを下げる観点から、参加者属性の詳細や、参加者からのフィードバックは記録しておらず、生涯スポーツの推進を改善するという観点からは、必要な情報が欠けているように思われます。また、年次ごとの目標値も数値が入っていないため、実績の妥当性を評価することが難しい状況です。今後は、事業内容をきちんと振り返り、評価できる体制づくりを期待します。

藤井委員長 本事業は、「生涯スポーツ活動の推進」にとっても大切だと思います。現在、施設利用者への任意のアンケートは行っているとのことですが、利用者に対するアンケートだけではなく、広く多様な地域で実施することで、市民のニーズを捉えた事業展開になるのではないかと思います。事業目的にあるように、市民の健康意識の高まりに応えるよう、様々な地域から多様な人や多くの人の参加が可能になるように、今後さらに充実した事業となることを期待しています。

藤井委員長 事業コード 724「学校・家庭・地域連携推進事業」について追加の質問はありますか。それでは講評に移りたいと思います。この事業に対するご意見をお願いします。

渡邊（美）委員 本事業は施策の柱「215 家庭における教育力の向上」「234 地域における教育力の向上」「831 命を守るコミュニティづくりの推進」にもかかわっておりますが、その中で今回取り上げさせていただいた「724 学校・家庭・地域等の連携協働の推進」は当該事業の最も期待される施策の柱のものであると思います。その点において本事業は目標実現に適切であると思います。日ごろ本事業にかかわっている立場として感じていることは、イベントとしての事業の実現ではなく、その過程で様々な議論し、関係を持つとすることそのものが重要だということです。15 地域協力者会議は、すべてが同じ環境にはなく、各々異なった課題を抱えているので、それぞれがやりやすい形で運営する形がとられていることは良いと思いますし、それだからこそ、それぞれがきちんと地域の特色と抱える問題点を意識することが大切だと思います。実感として、学校側との関係が深まり、教職員レベルでの理解もより深まるほど、現役保護者の方々の目が地域に向かい、地域の

方々も喜んで協力しようという良好な関係が築けるように思います。そして本事業にかかわったことのある PTA の OB は特に大きな力を発揮することができます。現代の環境に即した PTA の育成支援は大いに期待するところであります。

伴委員

ホームページの作成や、広報ふじさわ、リーフレット作成等の様々な媒体を通じて、学校・家庭・地域連携推進事業としての三者連携について周知活動を行い、活動を活発にさせていくために今後もコーディネーター役としてさらに発展していくことを期待しています。この事業は、地域における子どもたちの課題を会議の中で話し合ったり、地域でのイベントを開催する等「多文化、多世代が交流し、共生するコミュニティづくりを推進します」という基本目標に寄与していると強く思います。学校・家庭・地域が協力し合い、つながることで子どもたちを地域の一員としてあたたかく見守っていくことが子どもたちの居場所をつくり、孤立することなく子育てを行える環境につながると思います。PTA 組織の新しいあり方についてもゆるやかにつながることで、無理のないつながりをつくり、つながる大切さを感じられるとよいと思います。

渡邊（泰）委員

各地域で、学校・家庭・地域の三者連携を促進するための事業や会議を実施し、施策の柱である「学校・家庭・地域等の連携、協働の推進」に寄与していると考えます。地域協力者会議の参加者総数は、目標値に対して及んでいないため、来年度は目標値を達成するための具体的な取組を期待します。とも働き家庭の増加に伴い PTA の役員のみならず手が不足するなど、全国的にも PTA のあり方を変えていくことが求められていると考えられます。従来からの事業を継続するだけでなく、PTA 役員の潜在的な担い手の負担を軽減するような PTA のあり方を考えるだけではなく、新しい PTA の形への変化を促すような仕組み作りも今後は必要となるのではないかと考えます。

藤井委員長

本事業は、「学校・家庭・地域等の連携、協働の推進」にとっても貢献していると思います。報告から、継続的な事業内容だけではなく、新しい取組もあることが分かりました。地域連携の担い手の継続的な育成は、子どもの成長にとっても大切なことですので、さらに充実した取組を進めてほしいと思います。

藤井委員長

それでは議題の2「平成29年度 藤沢市教育振興基本計画の進行管理」に移ります。(1) 実施事業についてのご意見、どの事業でも結構ですし、または全体についてでも結構ですので、委員おひとりずつ、ご意見を伺いたと思います。

渡邊（美）委員

今回質問させていただいたことを中心に意見を述べさせていただきます。
113 学校ICT機器整備事業（情報教育）についてです。家庭や友だち間でよく話し合っって運用ルールを決めていくことを推奨していく取組をぜひ力を入れて行ってほしいと思います。情報モラル教育においては、保護者の理解が不可欠ですし、一番不安を感じているのも保護者だと思います。保護者とは十分情報を共有して取り組んでいただきたいと思います。151（152、154）特別支援教育推進事業についてです。連携が細やかになされていることがよく理解できました。学校側と保護者が良い信頼関係を保つことが重要と思われます。168 子ども・若者育成支援事業についてです。義務教育期からの不登校から、さらなる困難に陥ることのないようにアフターフォローの取組にはぜひ力を入れていただきたいと思います。さらに、社会に出てからの不適應者の把握は非常に難しいと思われませんが、外部の専門機関とともに継続して取り組んでほしいと思います。412 地球温暖化対策

普及啓発事業についてです。昨今の異常気象もあり、さらに温暖化に対する危機意識を高めるべく、啓蒙活動に取り組んでいただきたいと思います。517 文化ゾーンの再整備事業についてです。藤沢市は多方面に特徴ある形で文化芸術に力を入れているとは思いますが、その中核として市の文化芸術に関するものを発信し、アピールしていくものを考えていただきたいと思います。611 健康づくり推進事業についてです。従来の健康づくりトレーニングのプログラムの周知に努めるとともに、多くの市民が気軽に参加できる機会を作って健康意識を高める取組をしていただきたいと思います。さらに、他の自治体では、自治体主導の健康づくりの取組が紹介される場面を目にしますが、根本的に全市民に健康づくりに目を向けさせるような取組を本市でも期待します。725 男女共同参画推進事業についてです。様々な方面から啓発のための取組が行われている事がわかりました。学習指導の場でも当然この理念に基づいていることと思いますが、物心つくときから個人がお互いを尊重し、協力し合うという意識を育んでいただきたいと思います。812 教育文化センター研究研修事業についてです。防災に関しては、地域と家庭の協力が不可欠であるので、学校ぐるみでその意識を共有することができる本事業に期待します。さらに言えば、保護者会を含め近隣地域の学校同士の連携の強化もお願いしたいと思います。

伴委員

事業コード113 学校ICT機器整備事業(情報教育)についてです。情報教育は、今後ますます発展する情報化社会を生きていく子どもたちにとって、重要な教育であると思います。多様化する情報モラル問題に対して、各学校、各学年、各クラスのニーズに応じて教材を選択して使用できるよう、データの保存が行われていることはとても大切な取組だと感じました。今後もニーズを把握し、状況にあった対応を続けてほしいと思います。事業コード142 児童生徒指導関係事業についてです。支援の必要な子どもたちのために様々な関係機関で連携し、情報共有を行っていることは、とても重要なことだと思います。これからも、学校内はもちろん、外部の関係機関ともさらに連携を深め、適切な支援が行えることを強く願っております。事業コード213 放課後児童健全育成事業についてです。安心して放課後に過ごせる居場所づくりは重要だと思います。処遇の問題、物件の問題、立地の問題等、様々な課題はありますが、学校と家庭をつなぐ大切な役割を担っていると思います。ニーズに合った事業展開を期待しています。事業コード312 新入生サポート事業についてです。初めての学校生活をスムーズに過ごせるように学習支援、学校生活の場面でのサポートを、経験豊かな講師の方々にぜひこれからも続けてほしいと強く思いました。子どもたちのみならず、保護者の不安除去や、新人の教員に対するサポートも多角的な視野からのアドバイスをいただけることは、とても心強いと思います。事業コード313 学校図書管理運営事業についてです。司書教諭と学校図書館専門員、図書ボランティア、子どもたちによる図書委員会がお互いに役割を認識しながら連携を取り、風通しのよい関係を構築してほしいです。それぞれの役割を担うことで、より良い学校図書管理運営事業が行われることを願っております。事業コード517 文化ゾーンの再整備事業について、藤沢市内の小中学生が利用する機会がある市民会館や市民図書館について修繕や建て替え、バリアフリー化の検討がなされていることは、教育活動においても、環境がよくなることであるので、ぜひ進めていただきたいと思います。

います。事業コード514 文化活動支援事業について、次世代育成事業については優先的に助成していこうと考えてくださっているとのことですので、今後さらに子どもたちの文化活動が広がっていく取組を支援していただきたいと思います。情報発信について、もう少しわかりやすく普及できるようにおこなえるとよいと思います。事業コード711 多文化共生推進事業について、取組内容広く周知し、外国人市民の方々が藤沢市で暮らしやすいようなきっかけづくりをしていただきたいと強く思います。藤沢に暮らす一員として、顔の見える交流の機会を増やしていけるとよいと思います。事業コード812 教育文化センター研究研修事業について、テーマを掲げ、しっかりと研修、研究を行い、授業をより質の高いものへとするために活かして行ってほしいと思います。学校・地域・家庭を結ぶ取組についても、もっと研修のテーマとして組み込んでほしいと思います。事業コード832 学校防犯対策強化事業について、子どもたちが実際に自分たちで危険な場所を想定しながらマップを作ることは、実践的で良い取組だと思います。ぜひ、マップをもっと有効活用し、どのようにすれば危険を回避したり、身を守ることができるかを学んでほしいです。また、保護者や地域の方々にも、見守りの際の参考にしていただけたらよいと思います。全体について、様々な課で子どもたちを取り巻く環境をよりよくするために多くの取組を行ってくださっていることが分かり、深く感謝しております。もう少し、保護者や地域、関係機関等への情報提供、情報発信がスムーズになされ、広く周知できたらとよいと思います。

渡邊（泰）委員 事業コード142 児童生徒指導関係事業についてです。児童生徒の問題を事前に把握する上で、校内委員会のような取組みは非常に有効だと考えます。この取組を実効的なものにするためにも、児童生徒と向き合っている現場の先生方が、十分な時間を費やせるようなサポートをお願いしたいと思います。

事業コード164 若者就労支援事業についてです。支援事業の利用者数だけでなく、支援事業の具体的な内容も進捗状況報告書に記載してあれば、もう少し事業に対するイメージが掴みやすかったと思います。事業コード168 子ども・若者育成支援事業についてです。事業コード164「若者就労支援事業」との連携や関連が明らかになっていると、もっと良いと思いました。事業コード113 学校ICT機器整備事業（情報教育）についてです。プログラミング、普通教室でのICT活用、情報モラル教育は、いずれもこれからの社会に必要な知識となってくると思いますので、どのテーマについても十分な教育を行えるようなハード、ソフト両面の環境作りを続けていただきたいと思います。事業コード312 新入生サポート事業についてです。配属されているサポート講師について、教員としての経験を持っている方々であるということをお聞きし、安心いたしました。引き続き、経験を持つ人材を必要なだけ採用できるよう努めていただきたいと思います。事業コード313 学校図書館管理運営事業についてです。司書教諭が担任を持つなどで、常に図書館業務に関わることができないということを初めて知りました。他の業務との兼ね合いからなかなか難しいとは思いますが、常に図書館に司書がいるような環境が児童生徒の読書への関心を高めると思いますので、図書館専門員の活用を一層図っていただきたいと思います。事業コード412 地球温暖化対策普及啓発事業についてです。地球温暖化対策に当たっては、各家庭での取組も重要ですが、企業や事業所への啓発活動も重要だと考えます。今後は地元企業を巻き込んだ取

組も考えてみてはいかがでしょうか。また、課題・問題点にあるように、どの程度貢献できるか数値化が難しいということではありますが、何らかの数値によって見える化することで、各家庭での動機付けにもつながると思います。事業コード512 歴史遺産保存整備活用事業についてです。文化財の活用と保存をどのように両立させていくのかは難しい問題であるだけに、あらかじめ方針を定めておくことで、今後の運用にも役にたつのではないかと考えます。最後に全体についてです。全体として、適切な目標設定と運用が図られているように思います。ただ、特に人を充てる事業においては、現場の教員の負担や人手不足が透けて見えるようなところがあり、その点は気になります。教員の過重労働はどこでも言われていることですので、短期的な改善は難しいところだと思いますが、何とかならないかとも思います。

藤井委員長

事業コード155 子ども発達支援事業です。「子どもサポートファイル」の利用者の声から平成28年度に携帯版を作成したことが分かりました。様々な利用方法があると思いますので、ネット環境なども考慮しながら今後も必要な時に活用できるように利用者の声をもとに取組みを続けてほしいと思います。

事業コード213 放課後児童健全育成事業です。報告から、公募に対して事業者の応募がない地区があること、児童支援員の確保の課題、将来的な利用を考慮しながら整備計画の課題があることが分かりました。子どもたちにとって豊かな放課後活動になるように地区のニーズを捉えながら事業を進めてほしいと思います。

事業コード313 学校図書館管理運営事業です。報告から、学校図書館専門員と司書教諭や学校との連携に課題があると分かりましたが、学校図書は様々な子どもにとって重要な役割を担っていると思います。今後も、一人でも多くの子どもの読書活動が充実することを期待しています。事業コード164 若年者就労支援事業（若者しごと応援塾・ユースふじさわ）です。本事業は、様々な困難を抱えた若者の自立・就労支援に関する重要な事業だと思います。支援や情報が必要な人に届くためには課題や困難なこともあると思いますが、関係諸機関との連携やネットワーク構築を進めながら、可能な限り必要な人に関わりながら継続してほしいと思います。事業コード521 歴史遺産保存整備活用事業です。本事業は、歴史・文化・地域を含むとても大切な事業だと思います。文化財の保存には、予算も関わり、いろいろと難しいところもあるかもしれませんが、今後も文化財の適切で継続的な保存と指定を進めてほしいと思います。事業コード611 健康づくり推進事業です。生活習慣病の予防・改善などを事業目的としたとても大切な取組だと思います。市民一人ひとりが健康管理と健康相談を日常的かつ継続的に行うことができるような環境づくりを進めてほしいと思います。

藤井委員長

それでは、(2) 点検・評価及び進行管理を通じての教育委員会へのアドバイスに移ります。各委員より今回の点検・評価を通して感じたことなどを述べさせていただきます。

渡邊（美）委員

今年度で点検評価にかかわらせていただくのは2回目となります。改めて藤沢市で取り組まれている多くの事業を見直し、1年目と違う目線になるものもありました。その一つが連携についてです。昨年は一つ一つの事業を見ることに精一杯でしたが、今年はそれぞれの事業が周りの事業とどのようにかかわりあっているのかがとても気にかかりました。質問させていただいた特別支援教育推進事業

についてもそれぞれの立場で支援を必要とする児童生徒の立場に立って支えていることがよくわかりました。中学校英語科教員派遣事業もそうですが、今までの組織体制の垣根を越えて、最終的な目標のために連携しながら事業を推し進めることに今後も積極的に取り組んでいただきたいと思います。そして、必要ならば外部の専門機関を活用するなりして、時には合理的に効果の上がる方法を模索しながら事業を展開してくださると良いのではないかと思います。

二点目は、生涯学習の分野における周知に関することです。今までのような広報などにより受動的に情報を得る方法ではなく、求める人が自ら求めるものだけを深く知りたがる時代になってきたような気がします。このような変化を考えながら市民が求める事業展開と発信方法を工夫していただけたらと思います。そのうえで市民が受け身でなく主体的に参加していけるような場、発信し合い情報を共有し合えるような場の提供が、活力ある藤沢市を育むことになると思います。私なりの意見を述べさせていただきましたが、それぞれの事業は予算や時間など限られた制約のある中でしっかりと工夫しながら進められていると思いますので今後も藤沢市民のために頑張っていただきたいと思います。そして最後に、このような機会をいただいたことに感謝申し上げます。

伴委員

点検・評価作業を通じて、子どもたちのために様々な取組がなされていることを改めて知りました。自分自身が子育てをする中で、気がつかなかった事業も多くありました。ぜひ、素晴らしい事業のさらなる周知方法を検討し、より多くの子どもたちのために還元できるようお願いいたします。親として市民として PTA として、ご協力できることがあれば喜んでさせていただきたいという気持ちがある人もたくさんいると思いますし、私自身もさせていただきたいと強く思いました。家族形態の多様化し、家庭環境も様々である中、教育活動に取り組む教育委員会並びに関係各課の日々のご尽力と様々な事業展開、企画力に感謝をします。

子どもたちにとっても、親にとっても当たり前としての義務教育という場、時間はとても重要だと感じています。子どもたちが安心して毎日が送れるよう、当たり前の居場所という存在となるよう、また、無条件に受け入れてくれる場であるように願っています。子どもたちはなかなか SOS を発信する場所が見つげにくい環境にいます。学校というのは大人に SOS をいつでも出せる唯一の場でもあり、人間形成を行う大切な場所です。どうぞ、異変がある場合には見逃さず関係機関と連携し、健やかな成長をオール藤沢という体制で見守っていけるようお願いいたします。また、子どもたちの可能性、経験を多く積むことのできる学校教育の現場が掲げている施策の柱に向かっていけるよう、みんなで支えていける体制づくりを強く望みます。毎日、現場の先生方はとても負担が大きく業務量が多いということは報道等でもわかっていることではありますが、親として先生方のお仕事に大変敬意をもっております。現場の先生方の負担を軽減することで、より良い教育の場となること、教育の質の向上と、(教員もそうですが)心の充実、子どもたちに寄り添い、向き合える時間の確保がなされることを期待しております。

渡邊(泰)委員 今年度はじめて点検評価に関わることとなりました。藤沢市に位置する大学の一員として、重要な仕事を引き受けた責任を感じているところです。その一方で、この仕事を引き受けたことによって、点検評価の実際を観察する貴重な機会が与えられたとも言え、大学でも自己点検や認証評価と言った PDCA サイクルを意

識した取組が導入されてきていることから、私自身の勉強となることも色々ありました。以下、今回の点検評価活動の中で気づいたことを挙げたいと思います。第一に気になったことは、学校現場で児童生徒と向き合う教員の負担の増加です。学業、生活の両面で以前よりも細かいサポートが必要とされる一方で、教員数の増加は業務の増加に見合っているとは思えません。加えて、協働や連携の推進は関係者間の協議の増加をもたらすことから、これも現場の教員の時間を圧迫することが予想されます。小中学校だけではなく大学でも協働の推進が非常にうたわれています。それによって会議が増えてしまうということが起こっています。もちろん、協働や連携の推進それ自体は好ましいことですが、適切な人員配置や、情報共有のための手段の検討などによって、一人一人の負担が過重なものにならないよう目配りすることをお願いしたいと思います。

次に、こちらはやや些末なこととなりますが、報告書に記載されている情報について、年次毎の目標値に対する成果が、評価対象年度（H29年度）の数字だけしか書かれていないことが気になりました。これは特にあらかじめ数値目標が記載されている場合に関わるものですが、年次ごとの取組計画と予算・決算については経年で記載されているものの、実績については当該年度のものしか情報がないため、目標値の設定が妥当かどうか判断に迷うケースがいくつかありました。例えば、実績が目標値を下回った場合に、当該年度のみ未達なのか、過去から継続しているのかでは、課題・問題点での取り上げ方も変わってくると考えられるため、過去の実績値を報告書に含めることについても検討をお願いしたいと思います。大学の認証評価や自己点検では、点検活動それ自体は教育や研究に関わるような生産的なものではないため、関わる教職員のモチベーションはどうしても上がりにくいということがあります。行政の点検評価活動でも、同じようなことがあるのではないかと想像していますが、実際に点検活動行うことによって、自分たちでも見落としていたことを見つける機会となることもありますので、毎年続けていくことが何よりも大切なのだろうと思います。今後も藤沢市や藤沢市の教育のために、点検評価活動も改善しつつ継続していくことを期待しています。

藤井委員長

今年度で三年目になりました。昨年までの内容を踏まえながら、地区ごとの特色やそれぞれの状況に配慮した多様性の視点から質問をいたしました。

点検・評価では、各委員からの様々な質問に対して詳細な説明がなされることによって、報告書からは読み取りにくい一つ一つの事業の意義や射程が明確になると感じています。どの事業も、とても意味のある取組だと思いました。一つ一つは、異なる事業内容であり、目的も異なるのですが、広く市民の生活の充実に関わる点では共通しているように思います。とてもたくさんのことに取り組んでいる背景には大きな目標やその背景にある考えがあると思いますので、年次ごとの取組計画における数値の達成とともに、それぞれの事業の背景にある考え方や事業どうしのつながりについてももう少しお話いただくと、取組の方向やその上での課題を知ることができるように思います。市民一人ひとりが充実した生活を送ることができるようにさらに多様性に配慮した事業の取組を期待すると同時に、充実した学びの展開が広がることを願っています。

藤井委員長

ありがとうございました。

藤井委員長

これで議事を終了したいと思います。ここで評価委員会を振り返り、挨拶をさ

させていただきます。

いろいろありがとうございました。先ほど少しお話をしたのですが、ご質問をしてその質問に答えていただくことで、どういう取組をしているのか、細かいところ地区ごとにどういう取組があるのか、その事業内容の背景、現在の課題がどういうところにあるのかということが非常によくわかってきます。ですので、そうしたやりとりが非常に大事なのではと感じました。それを通して、評価委員のほうでもそれぞれの事業のイメージや全体像といったもの、あるいは他の事業とどうつながるのかということを考えることができるように思います。こちらの質問に対して非常に丁寧に答えてくださり、よりそれが事業内容の理解につながっているところがとても大切なのだと思います。それぞれの事業ですが、少しずつ事業を連携していくことによって、発展が可能な取組につながったり、事業ごとの連携に考えていけるのではないかと思います。また今後ともよろしく願います。

藤井委員長 その他、事務局から連絡事項がありますか。

繁里指導主事 今後ですが、今回、評価をしていただいた内容につきましては、『藤沢市教育委員会の点検・評価』および『藤沢市教育振興基本計画の進行管理』に関する報告書』として作成いたします。その際に、点検・評価対象事業となりました事業担当課におきましては、このたび評価委員の皆さまよりいただいたご意見を踏まえた今後の方向性について別途報告を依頼しますので、ご協力をお願い致します。また、評価委員の皆さまには個別に連絡を差し上げ、内容の確認をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

藤井委員長 ここで、教育次長から発言を求められています。

神原次長 委員長をはじめ委員の皆様には、猛暑の折、また平日の大変お忙しい時間帯に、3回の会議にご出席いただきまして、ありがとうございました。また会議の場だけではなく、その間、資料の読み込み等の貴重なお時間をいただきましたことをお礼申し上げます。また、それぞれのお立場から、本市の教育振興基本計画の進行管理および教育委員会の点検・評価につきまして、熱心にご質問、ご意見をいただき、感謝申し上げます。“未来を拓く「学びの環」ふじさわ”を基本理念に掲げて推進している藤沢市教育振興基本計画ですが、このたびの点検評価を通して、委員の皆様からいただいた貴重なご意見を実施事業の中で生かしながら、「学びを通して人と地域がつながる生涯学習社会、ふじさわ」を目指してまいりたいと思います。来年度には、本計画の第3期の策定を控えております。今後とも、委員の皆様には、本市の教育行政を見守っていただき、いろいろな立場で、ご指導やアドバイスをいただきたいと思います。大変簡単ではありますが、御礼のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

藤井委員長 以上をもちまして、藤沢市教育振興基本計画 評価委員会を終了いたします。ありがとうございました。

(終了)